

子宝和安 子育て世代の方へ 子育て・教育に関するお知らせ



子育て支援センターからのお知らせ

子育てに関する講座や講習会、育児相談などを行っています。申込みが必要な場合がありますので、下記QRコードをご確認いただくか、問合せください。

▼対象 0歳から就学前の子どもと保護者・妊娠中の方

▼時間 平日 9時～14時

あそびのひろば（当別地区）

▼内容 ベビーマッサージ、絵本・わらべうた、クリスマス会

▼問合せ 子ども未来課子育てサポート係（ゆとろ内・☎25-2658）



町ホームページ

おとぎキッズ（太美地区）

▼内容 絵本の読み聞かせ、おはなしの会、ヨガ、しめ縄作り

▼問合せ 認定こども園おとぎのくに（☎26-2353）



おとぎのくにホームページ

はたちになるわが子へ贈る言葉を大募集！

令和7年1月12日に、「当別町はたちのつどい」を開催します。そこで、20歳という節目を迎えるわが子へ贈る、いままでの思い出やこれから望むことなどのメッセージを募集します。文章が短くても、匿名でも構いません。

募集したメッセージは、しおりに掲載する予定です。また、一部は式典で朗読します。

▼様式 200字以内であれば様式は問いません。

▼応募方法 メッセージを書いた用紙の余白に、住所・氏名（匿名可）・電話番号を記入し、社会教育課へ持参・メール・郵送・FAXのいずれかでご応募ください。なお、用紙は返却しません。

▼期限 12月20日（金）

▼応募先・問合せ 社会教育課社会教育係（☎22-3834、FAX:23-3114、mail:kyoshakai@town.tobetsu.hokkaido.jp）

図書館からのお知らせ

当別町図書館企画展 第50弾 クリスマス・お正月特集

今年も残すところあと一ヵ月。素敵なクリスマス・お正月を迎えましょう！

▼期間 12月1日（日）～12月28日（土）

▼場所 当別町図書館・当別町図書館西当別分館

▼年末年始の休館日 12月29日（日）～令和7年1月3日（金）

▼問合せ 当別町図書館（☎23-0573）

新着図書

当別町図書館【一般書38冊、児童書39冊】

・「そして誰もいなくなるのか」（一般書）小松 立人
・「パンどろぼうとりんごかめん」（児童書）

柴田 ケイコ

当別町図書館西当別分館【一般書25冊、児童書24冊】

・「へっぽこ膝栗毛1」（一般書）稲葉 稔
・「よるよ」（児童書）コジヤジコ

▼問合せ 当別町図書館（☎23-0573）、当別町図書館西当別分館（☎26-3300）

広告



子どもたちの成長を磨き育てる大人の関わり

秋と言えば、読書の秋、食欲の秋、芸術の秋と色々な秋が思い浮かびます。10月、11月と当別町の3校においても学会、学校祭等の行事が行われました。

10月5日（土）には、とうべつ学園祭が開催されました。昨年度から5・6年生が加わり、合唱の発表を行う新しい形での学園祭です。生活体験作文・英語暗唱の発表では、7～9年生の代表生徒が、聴衆に向けて堂々と訴える姿に成長の大きさを感じました。プレゼンにおいても、これまでの探究活動の成果をスライドにしっかりまとめあげて発表していました。



同じ日に、西当別中学校祭が開催されました。午前中は、創作劇の発表や有志での発表が行われました。午後の合唱発表では、廊下から幕前の発声練習が聞こえるなど生徒たちの熱量の高さを感じました。本番での素敵な歌声を聴きながら、皆で創り上げた一体感や絆の深まりを至る所で感じる事ができました。



10月26日（土）には、西当別小学校で学芸発表会が開催されました。この日に向けて、1年生から6年生の子どもたち、そして、教職員が一丸となって準備に取り組んだことと思います。子どもたちの成長が著しく、行事を通して成長するたくましい子どもたちの姿を見ることができました。



とうべつ学園は、他の行事の関係で少し後の11月30日（土）に学習発表会を開催する予定です。学習の成果を生かした子ども主役の発表を創り上げているものと思います。さて、一つの大きな行事を終え、各学校においては、子どもたちに次の目標を持たせて、さらなる学びに向けて取り組んでいます。

今は12月となりますが、まだまだ読書に親しむには、これからの季節もよい時期です。文部科学省の子どもの読書活動の推進等に関する調査研究で、調査時に21歳で1カ月間に読んだ雑誌や漫画の冊数は0冊と答えた人が、雑誌や漫画以外の紙の書籍のみでは6割を超え、電子書籍を加えても5割以上に上り、「読書離れ」は深刻となっていることが示されました。

私は、時間があれば仕事帰りや休日に図書館や本屋さんで過ごす時間がとても好きで、いろいろなジャンルの本を手に取りながら眺めています。自分が探している本しか目に入りにくいネット検索では、なかなか味わうことができません。どんな本でも構いません。一冊の本との出会いは人生の骨格を作るとも言えます。タブレットやスマホの代わりに本を手にし、読書を楽しんでみませんか。

小学校の担任をしていた頃、年間400冊読んだ子に、本を読む理由を聞くと、「本の世界に入り込むのが楽しいから」と笑顔で教えてくれました。週末は、親子で図書館に行き、どっさり本を借りてくるのだそうです。どうすれば子どもが本に触れる機会を作れるのでしょうか？「子ども読書週間」を主催する読書推進運動協議会では、具体的に3点挙げています。

1. 大人が本を読んで聞かせてあげる。(読み聞かせ)
2. 子どもの身近にいつも本を置くことを考え、毎日たとえ短い時間でも本を読むことを勧め、本を読むのを聞いてあげる。
3. 大人が読書する姿を、子どもの目に触れさせる。

ただ、読書を習慣化させることは大人でも簡単ではありません。最初は、「本を読むこと」にこだわらず、本について話したり思い出したりするような体験で、気持ちを慣らしていくのはどうでしょう。読書によって、読解力、語彙力、想像力、思考力など、様々な力が身につきます。でも、その大前提として、読書は楽しいものです。読書の楽しさに気づいてもらえないなあくらいの気持ちで、本が好きになる芽が出るまで種を蒔き続けていくようにしてはどうでしょう。

